

やなかわ

YANAGAWA 2012.

No. 183

11月1日

今号の内容

◆	ページ
◆平成 23 年度一般会計決算ほか	2~7
◆柳川よかもんまつりガイド	8~9
◆特定健診は受診しましたかほか	10
◆4 種混合ワクチン接種のお知らせほか	11
◆第 25 回柳川市総合美術展	12
◆こっぼり一観光大使心得に就任ほか	13
◆市民のひろば (14-15) ◆川柳 (15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (16-17) ◆情報わいど (18-23) ◆がんばったね・ぬくもり (23-24) ◆柳川にこの人あり堤清美さん (24) ◆もちふみデビュー (25) ◆保健ガイド (26-27) ◆新市史抄片 (28)	



ダンスエナジーで高畑公園 沸騰

若者にダンスで自己表現してもらい、元気と笑顔のあるまちにしようと、柳川青年会議所は 10 月 7 日、高畑公園の特設ステージで「YANAGAWA DANCE ENERGY 2012」を催しました。この催しにはキッズ・ジュニア部門 13 チーム、一般部門 12 チームの合計 25 チームが参加。それぞれのチームは、おそろいのステージ衣装に身を包み、持ち時間の 3 分間を音楽に合わせて、元気いっぱい踊り切りました。この日は三柱神社の「おにぎえ」の中日ということもあり、会場には若者を中心にたくさんの方が来場。音楽に合わせて体を揺らしたり、知り合いのチームに声援を送ったりして、秋の休日を楽しんでいました。

豊臣秀吉ゆかりの茶壺

立花家伝来の茶道具

写真は、初代柳川藩主・立花宗茂が、豊臣秀吉から、大坂城で拝領したと伝えられる茶壺です。

宗茂は、秀吉の九州平定戦における功績により、豊後大友氏から独立して筑後3郡を治める大名となり、柳川に城を構えました。それから、豊臣政権下の大名として、柳川と秀吉がいる京都・大坂を行き来しており、天正18(1590)年は1年間近く大坂に滞在したとみられています。もしかすると、このころに茶壺を拝領したのかもしれない。



宗茂が秀吉から拝領したと伝えられる唐物茶壺(中国・明代(15~16世紀))

この茶壺は 12 月 24 日まで、立花家史料館の秋のテーマ展「お茶をたしなみ、お香をたのしむ〜千利休がそだて片桐石州がつたえた“わび茶”の道具と、王朝文化へのあこがれをあつめた雅な香の道具〜」で展示中です。

【問】同史料館 (☎73・2189)

将たちは、名のある茶壺を競い合っ
て買い求め、茶壺一つに金50枚以上
の値段を付けることもありまし
その時流のなかで、茶壺を拝領した
宗茂の喜びは、とても大きかったこ
とでしょう。以来、この茶壺は、立
花家の家宝の一つとして大切に伝
えられてきました。大きく四つに割れ
たようですが、外見からは分からな
いように漆で補修され、400年後
の現代まで伝えてきたのです。

搬・保存する容器として作られ、日
常用品として安価で売買されてい
と想像されます。しかし、日本の茶
人たちは、中国からもたらされた雑
器に美しさを見つけ出し、茶道具の
筆頭に位置付けたのです。

長い時を経たことを感じさせる紅
地雲板唐草文金襴の口覆の下には、
桐蓋がかぶせられ、現状では封印紙
が貼られています。おそらく、この
壺に葉茶を入れて保存し、茶事にの
ぞむごとに壺から葉茶を出し、石臼
で引いて抹茶にしたのでしよう。

戦国時代以降、江戸時代を通じて、
茶の湯は、武家が修めるべき教養で
あり、大名たちは自らの家の格にふ
さわしい茶道具を収集しました。秀
吉ゆかりの茶壺に代表される、立花
家伝来の茶道具は、柳川藩主の名に
恥じない名品ぞろいで、千利休の流
れをくむ「わび茶」の世界を感じる
ことができます。

現在開催中の秋のテーマ展は、立
花家の茶道具コレクションを、ま
めてご紹介しています。またとない
機会ですので、ぜひご覧いただきた
いと思います。

立花家史料館学芸員 坪内広子

人のうごき

- 人口 71,185 人 (前月比-14)
- 男 33,741 人 (-6)
- 女 37,444 人 (-8)
- 出生 35 人、死亡 55 人
- 転入 121 人、転出 115 人
- 世帯数 24,870 世帯 (+7)